

その上に角レキを含む㊸層がつもり、更に、赤かっ色を帯びた㊹層がつもってできていることを理解する。

④ 道路沿いに㊸層を追ってみよう。

大きくわん曲しながら、水平方向に広がりをもってつもっていることを理解する。

(3) 地層に近づいて、その特徴を観察させる。

㊸層を触ってみると、クレンザーのような手ざわりがします。これは細かい砂(シルト)だけでなく、火山灰が混じって水中につもったためです。

㊹層は5 cm大の白っぽい、ガスが逃げたときの通路が穴となつてたくさん残っている軽石を含んでいる、軽石凝灰岩です。

㊸層は茶黄色を帯びた角レキを含む凝灰岩がつもつてできた角レキ凝灰岩。

㊹層はがけの最上部に観察される赤かっ色の火山灰が、風で運ばれてきてつもつてできたローム層です。

このがけで観察された㊸、㊹、㊸層は、新第三紀の末の鮮新世の地層で、当時現在の福島盆地の南縁部にあたる伏拝から蓬萊一帯が盆地状の低地となつて、周辺から土砂が運びこまれつもつてできた地層です。その後、この一帯は隆起し、沖積世に入って吾妻山の噴火活動が始まり、その火山灰が西風で運ばれ、㊸層の上をおおうようにして㊹層がつもりました。

